



はじめに

須賀川市は、将来にわたり持続的に発展し、豊かでゆとりある地域社会を形成していくため、平成17年4月1日に旧長沼町、旧岩瀬村と合併し、新生須賀川市として新たな一歩を踏み出しました。

水道事業においては、合併当初にそれぞれ独立した運営を行ってきた地域水道事業を平成20年4月1日に統合し、新たな須賀川市水道事業としてスタートしました。

本市水道事業は、須賀川地区では昭和11年、長沼地区では昭和46年、岩瀬地区では昭和43年に給水を開始して以来、安心、安全、安定を使命に事業を進めてまいりました。

この間、人口の増加や経済発展に伴い、各地区において拡張事業を実施し、水道施設の拡充を図るとともに、お客さまサービスの向上を図り、より質の高い給水サービスを目指して、事業を実施してきました。その結果、現在では、水道普及率が91.3%という高い数値となっております。

これまでの水道事業は、人口や給水量の増加に対応するための施設整備を中心に事業を展開してまいりましたが、少子高齢化社会の進行に伴う人口の減少や多様化するライフスタイルなどによる社会情勢の変化に加え、施設の更新、環境への配慮、災害への対応など、これからの水道事業は、「建設」から「維持管理」へと経営方針の大転換が必要急務となっております。

このような中、国においては、平成16年に「水道ビジョン」が策定され、今後の水道事業の取り組むべき方向や水道関係者全体が丸となって諸問題を解決するための方向性が示されました。

本市では、今世紀半ばの本市水道事業の将来像を念頭に、目標年度を平成32年度とする「水道ビジョンすかがわ2020」を策定しました。

この「水道ビジョンすかがわ2020」は、須賀川市総合計画である「新生すかがわ2007」と国の「水道ビジョン」の方針を踏まえた上で、本市水道事業が抱える問題や課題を抽出し、その問題や課題を解決する基本方針と基本施策を定めた内容といたしました。

これからは、「水道ビジョンすかがわ2020」で定めた方針に基づいて、具体的な施策を展開していくことにより、安心な水をいつでも、いつまでもお客さまにお届けすることができるものと考えております。

今後も、安心して水道をご利用いただけるよう、「水道ビジョンすかがわ2020」に示した計画を推進してまいりますので、ご支援とご協力をお願いいたします。

平成23年3月

須賀川市長 橋本克也